いちのみやの芸術文化

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

- 特集「佐分慎一郎の世界一周旅行」
- 一宮市芸術祭アルバム
- エッセイ「花についての考察」
  洋画部門　一宮美術作家協会／洋画部　若月 陽子
- 文化情報

左から佐分眞、母・田中たま、妹・保子、父・慎一郎
小学校5年次　明治42年（1909）

2025.3
第66号

一宮市芸術文化協会

一宮を学ぶ特集

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

佐分慎一郎の世界一周旅行

実業家・佐分慎一郎

洋画家・佐分眞（さぶりまこと）（一八九八～一九三六）の父として知られる佐分慎一郎（一八五七～一九一五）は、中島郡一宮村（現・一宮市）出身で、一宮地域の近代化において重要な役割を果たした実業家でした。教員採用時の履歴書が残っており、若い頃は教職に就いていたようですが、明治十四年（一八八一）に設立された一宮銀行の取締役監事を務めたのを皮切りに、明治二十八年（一八九五）設立の一宮紡績株式会社では設立発起人取締役となり、明治三十六年（一九〇三）には同社社長に就任しています。また、明治四十二年（一九〇九）の一宮瓦斯（ガス）株式会社、大正元年（一九一二）の一宮電気株式会社設立に際しても取締役となり、その後は名古屋にもビジネスの手を広げました。明治三十一年（一八九八）五月から二年間は、第六代一宮町長を務め、名実ともに一宮を代表する名士であったといえるでしょう。長男・眞が生まれたのは、ちょうど慎一郎が町長となった年で、眞の母・田中たま（一八六七～一九四四）は、名古屋の花柳界で名妓と謳われた芸者でした。

日本初の世界一周団体旅行

令和五年度に、一宮市博物館では佐分家関連資料のご寄贈を受けました。今回はその資料から、慎一郎が参加した日本初の世界一周団体旅行についてご紹介します。

慎一郎が参加したのは、朝日新聞社が主催した「世界一周会」という企画でした。明治四十一年（一九〇八）元旦の『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』紙上で企画が発表され、大々的に参加者が募集されました。

▲図1 ハワイ・ホノルルの絵はがき
明治41年4月10日名古屋消印
左上に「朝日　世界一周会」の印影がある。

発案者は朝日新聞社の記者であった杉村楚人冠（本名・広太郎）、旅行業務は英国のトーマス・クック社が請け負っていました。総日数九十日間、総額二、一〇〇円（途中、イタリアにも訪問したため、最終的には九十六日間、二、三四〇円）に及ぶもので、現在の金額に換算すると、一千万円以上となるものでしたが、二十人以上五十人以下という定員は早々に埋まったようで、総勢五十六名が世界一周旅行に出発しました。三月十六日神戸港、三月十八日横浜港を出発した一行は、途中ハワイ・ホノルルに一泊し、アメリカ・サンフランシスコに到着。そこからフェリーでオークランドに渡り、アメリカ大陸横断鉄道に乗車して、ソルトレイクシティ、シカゴ、カナダを回ってナイアガラの滝を見学し、ボストンに到着。ボストンからは汽船でニューヨーク、ワシントンに至ります。そこで一行は、四月十八日に当時大統領であったセオドア・ルーズベルトに謁見しました。

アメリカから大西洋を渡って、イギリス・リバプール、ロンドンに赴き、フランス・パリからイタリアに足を延ばし、スイスを通過してドイツに向かい、最後の滞在国・ロシアに到着しました。モスクワからは、シベリア鉄道でウラジオストクに向かい、六月十九日に当地を出立した一行は、二十一日に無事敦賀港に帰着しました。

旅行中は、観光だけでなく、現地の有力者との交流や晩餐会など、民間外交も盛んに行われました。旅行参加者も財界人が多く、商品の買い付けや現地の証券取引所の視察などを兼ねていて、途中で別行動を取る人もおり、旅程は柔軟なものでした。

佐分家の資料の中には、旅行中の慎一郎が家族に送ったものと思われる外国からの絵はがきが多数あります（**図1・2**）。地元財界で活躍していた慎一郎にとって、見聞を大いに広める機会となりましたが、当時十歳だった眞は、父のおみやげ話をどのような気持ちで聞いたのでしょうか。長じて画家となった眞も、やがてパリに渡り、その画才を開花させていくことになります。

（一宮市博物館学芸員　成河端子）

■参考文献
『佐分眞展　洋画界を疾走した伝説の画家』展示図録、一宮市三岸節子記念美術館、二〇一一
我孫子市杉村楚人冠記念館編著『楚人冠と世界一周旅行（我孫子市文化財報告第10集）』
我孫子市教育委員会、二〇一五

▲**図2**　スイス・バーゼルの絵はがき
5月28日バーゼル消印　1908年6月16日敦賀消印　明治41年6月16日名古屋消印
左上に「VIA SIBERIA」（シベリア経由）と書き込まれている。

9回
芸術祭
11・12月分）

音楽部

水絵の会展

12月10日（火）～15日（日）
三岸節子記念美術館
水絵の会

一宮シティ合奏団第30回定期演奏会

11月３日（日・祝）
尾西市民会館
一宮シティ合奏団

尾西ウィンドオーケストラ 第93回定期演奏会

11月24日（日）
尾西市民会館
尾西ウィンドオーケストラ

楽しく描こう会水彩画展

12月17日（火）～22日（日）
三岸節子記念美術館
楽しく描こう会

曾山流樹徳吟詠会山螢会第99回錬成会

11月10日（日）
尾西商工会館
山螢会

一宮市民吹奏楽団 第49回定期演奏会

12月8日（日）
一宮市民会館
一宮市民吹奏楽団

トールペイント作品展

12月19日（木）～22日（日）
三岸節子記念美術館
アトリエ・Nayumi

一宮三曲協会定期演奏会

11月23日（土・祝）
尾西信金ホール（木曽川文化会館）
一宮三曲協会

濃尾岳風会一宮支部納吟会

12月14日（土）
真清田神社参集殿
濃尾岳風会一宮支部

第7

一宮市

開催報告(

「第79回 一宮市芸術祭」を2024年９月から12月に市内各所で開催しました。今回は43行事が開催され、約18,000名の方が来場されました。

文学部

俳句大会

11月３日(日・祝)
一宮スポーツ文化センター
一宮俳句協会

市民短歌大会

11月10日(日)
一宮スポーツ文化センター
真清短歌会

美術部

第40回一面会 能・狂言面作品展

11月16日(土)～17日(日)
アイプラザー宮
一面会

第69回(公社)中部日本書道会一宮支部展

11月23日(土・祝)～24日(日)
一宮スポーツ文化センター
公益社団法人中部日本書道会一宮支部

第52回(公社)中部日本書道会一宮支部学生書道展

11月23日(土・祝)～24日(日)
一宮スポーツ文化センター
公益社団法人中部日本書道会一宮支部

第22回尾西作家協会展

12月3日(火)～8日(日)
三岸節子記念美術館
尾西作家協会

水彩画アクア展

12月10日(火)～15日(日)
三岸節子記念美術館
アクアの会

『いちのみや文芸2024』を発刊しました。

随想･随筆､現代詩､漢詩､短歌､俳句､狂俳､川柳の７部門あわせて1,710作品を掲載しています。ぜひ一度､手に取ってお読みください。

頒布価格　800円
頒布場所　一宮市芸術文化協会事務局
（市教育委員会生涯学習課）

エッセイ

花についての考察

洋画部門　一宮美術作家協会／洋画部　若月　陽子

神々や愛しいものに捧げる花、なぜ人は花に魅せられるのだろう。本来植物は生殖のための花、それを助ける虫の好みに合わせ、様々な姿かたちを生み出した筈。私は、子供のころから花を、花の構造を描きながらずっと不思議に思っている。春、たわわに咲く花が秋の豊かな実りの約束と先を知る人間は安堵の心で花を眺める、それだけではない何かがきっとある。

古代エジプト、アンケセナーメンが若き王の骸に捧げた矢車草の逸話はロマンティックだが、後世の創作らしい。しかし、当時も今と同じように葬儀には生花が欠かせなかった。（現地博物館で今もなお、崩れることなく残っている花飾りが展示されている）

更に遠い昔に遡れば、二十万年前のネアンデルタール人の子供の埋葬跡から大量の花粉が検出され（以前のイランでの報道）、埋められる我が子に若い親たちがたくさんの花を供えた様子が目に浮かぶ。

Hyacinth ／2018製版／木口木版

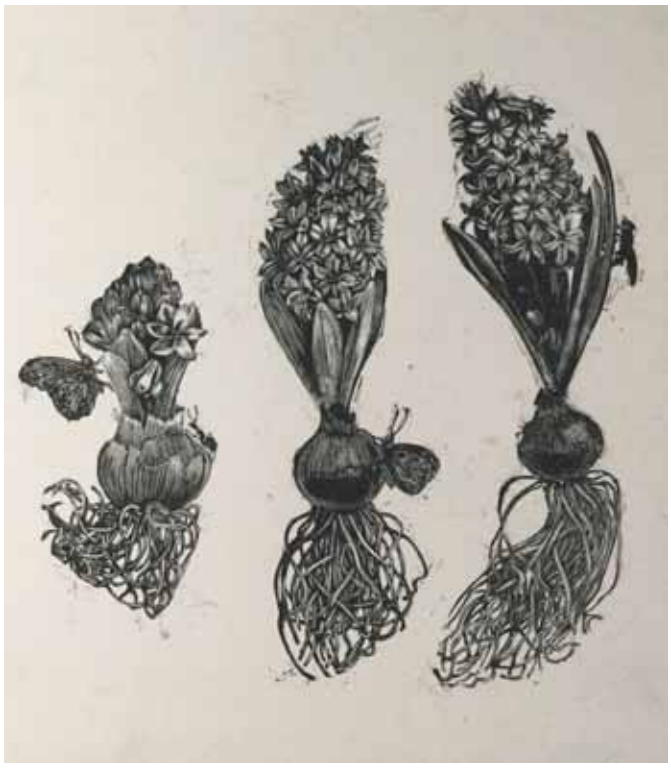
手の中の芽吹き
2014－2024製版／木口木版

宗教を持ったホモサピエンスも事あるたびに花々を捧げ、我々の今にいたるということか…近年、人類の生物学的な新たな歴史観がわかりやすく報道されているが、私の一番の疑問は「心というものがどうやって育って来たのか」である。

さて、ハレの時ばかりでなく、悲しみの中でも、かぐわしい花を捧げたいと願うその心は、親から子へ、手から手へ、遺伝子に組み込まれているがごとく繋いできたからか。しかしながら、私が、一輪の花をこの手に乗せたくなる衝動がどこから来るのか未だに解らない。

〈花についての考察／再考〉

学生時代、私は銅版画を専攻していた。木口木版（こぐちもくはん）を手掛けたのは結婚後、子育て中のことである。木口木版は硬い木材の木口面に細い刃物で彫り込む技法。多くの薬品を使う銅版画に比べると安全で暮らしの中で続けやすかった。18世紀にイギリスで生まれ、活版印刷と共に歩んだ木口木版はノスタルジックなニュアンスがある。



Hyacinths／2018製版／木口木版

文化情報

椿　　髙橋　弘子

一宮市芸術文化協会加入団体の催し

『箏曲演奏会』

【問合せ先　藤乃会】
☎(62)8327
日時▼3月30日(日)　午後1時30分～
会場▼尾西商工会議所
内容▼皆さんおなじみの曲から新曲まで、箏曲の演奏会を行います。
入場料▼無料

『濤聲會作詩教室』

【問合せ先　一宮漢詩濤聲會】
☎(78)7953
日時▼4月1日(火)・5月6日(火)　6月3日(火)　午前10時～
会場▼中央図書館
内容▼漢詩文の実作指導や、創作詩の添削の検討を会員間で行います。(初心者歓迎)
参加料▼年3、000円
申込み▼当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先　一宮狂俳壇連盟】
☎(78)5002
日時▼4月12日(土)・5月10日(土)　6月14日(土)　午後1時～
会場▼葉栗公民館
内容▼各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。(初心者歓迎)
参加料▼無料

『能・狂言面の制作』

【問合せ先　一面会】
☎(71)2716
日時▼4月12日(土)・26日(土)　5月10日(土)・24日(土)　6月14日(土)・28日(土)　午前9時30分～
会場▼アイプラザ一宮第5会議室
内容▼実作指導します。(初心者歓迎)
参加料▼月3、000円(見学無料)
申込み▼当日直接会場

『市民短歌教室』

【問合せ先　真清短歌会】
☎(85)7074
日時▼4月13日(日)・5月11日(日)　6月15日(日)　午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼実作指導します。(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先　一宮市民俳句教室】
☎(73)0282
日時▼4月20日(日)・5月18日(日)　6月15日(日)・7月20日(日)　午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼当季雑詠2句を実作指導します。(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼開催日の前月末日(必着)までにハガキにて、参加希望日・当季雑詠2句(初参加の方は希望者のみ)・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・参加経験の有無を記入の上、送付(〒491-8501　本庁舎生涯学習課)

『春季謡曲大会』

【問合せ先　一宮謡曲同好会】
☎(73)1388
日時▼4月20日(日)　午前9時30分～
会場▼尾西生涯学習センター
内容▼素謡、連吟等の発表
入場料▼無料

『市民川柳教室』

【問合せ先　一宮川柳社】
✆(85)7074

日時▼4月27日(日)・5月25日(日)
6月22日(日)　午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼自由吟および課題吟を実作指導します。(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼初参加の方は開催日の3日前までに電話で生涯学習課(✆85－7074)

『一宮音楽家協会サロンコンサート』

【問合せ先　一宮音楽家協会】
✆(45)9241

日時▼5月11日(日)　午前11時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼親しみやすい名曲の数々を新緑のようにさわやかにお届けします。アットホームで楽しいコンサートです。
入場料▼無料

『一宮市民吹奏楽団レインボーコンサート2025』

【問合せ先　一宮市民吹奏楽団】
✆080(5102)8611

日時▼6月15日(日)
午後1時30分～
会場▼尾西市民会館
内容▼行進曲「錨を上げて」や「千と千尋の神隠し」などを演奏します。皆さんと一緒に「星条旗よ永遠なれ」の演奏も行います。
入場料▼500円(前売400円)
中学生以下無料(要整理券)

『尾西ウィンドオーケストラ第94回定期演奏会』

【問合せ先　尾西ウィンドオーケストラ】
✆090(7028)9165

日時▼6月22日(日)　午後2時～
会場▼尾西市民会館
内容▼今年没20年となるA・リード氏のアルメニアン・ダンス全曲やジャズ&ラテンステージなど楽しい演奏会を開催します。
入場料▼500円
中学生以下無料(要整理券)

春の市民美術教室

対　象◎市内在住・在勤・在学の方
申込み◎各教室の申込締め切り日までに電子申請または電話で芸術文化協会(✆0586-85-7074)
※電子申請は一宮市公式ウェブサイトまたは下記2次元コードから申し込みできます。

写真『楽しく始める芸術写真』

日時・会場◎5月15日～6月5日の木曜日
午後1時30分～3時30分 一宮スポーツ文化センター
屋外撮影会　5月18日、25日(日)
午前10時～正午 138タワーパーク等
内容◎屋外での写真撮影を交え、写真の基礎を学びます。
講師◎夫馬勲さん(日本写真家協会会員)
定員◎30名(抽選、初参加の方優先)
受講料◎1,500円
申込締め切り日◎4月22日(火)

油彩・アクリル画『初心者からの油彩・アクリル画』

日時◎5月23日～7月4日の金曜日(6月6日を除く)
午前10時～正午
会場◎いちのみや中央プラザ体育館(第2会議室)
内容◎油彩またはアクリル画のいずれかを選んで基礎を学び、人物画を描きます。
講師◎大島麻琴さん(二科会会員、一宮美術作家協会)
定員◎25名(抽選、初参加の方優先)
受講料◎4,500円(教材費を含む)
申込締め切り日◎4月22日(火)

書『楽しみ、親しみま‘書’』

日時◎6月4日～7月9日の水曜日
午前9時30分～11時30分
会場◎一宮スポーツ文化センター
内容◎書道の基礎を学び、自分らしい字でオリジナル作品を作ります。
講師◎川浦碧濤さん((公社)中部日本書道会一宮支部)
定員◎20名(抽選、初参加の方優先)
受講料◎2,400円(教材費を含む)
申込締め切り日◎5月13日(火)

[題　　字]武　山　翠　屋
[編集・発行]一宮市芸術文化協会
[連　絡　先]一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501　愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7074　／　FAX 0586-73-9213